

テーマ：エコカー補助金の終了時期を占う

～9月中旬から下旬に終了か。終了後の反動減が景気の足を引っ張る可能性大～

発表日：2012年5月7日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

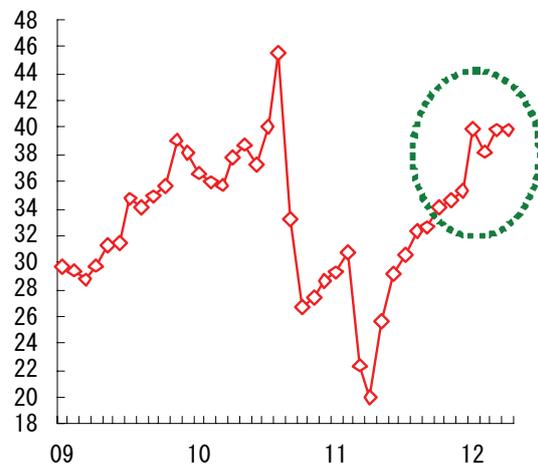
要旨

- エコカー補助金の予算額は3000億円であり、そのうち事業車用が218億円、自家用が2748億円となっている。事業車用については既に予算切れが迫っているとみられ、早ければ5月中、遅くとも6月には予算が尽きる可能性が高い。
- 自家用については、4月末時点で予算の約半分が既に消化されたとみられる。仮に5月以降、4月（季節調整値）と同水準の販売が続くとすれば、ちょうど9月末で予算が尽きると試算される。また、前回の補助金終了前の駆け込み需要が生じた2010年8月と同じ販売水準が5月以降続くと想定したケースでは、9月中旬に予算が尽きると試算される。9月中旬から下旬頃にエコカー補助金が終了する蓋然性が高い。多少販売が下振れたとしても、10月には終了するだろう。
- 補助金の終了後には、前回と同様、自動車販売台数は大幅に落ち込むだろう。足元の景気は①公共投資の急増、②自動車販売の増加、により予想以上の堅調さを示しているが、この二つの要因は年末にかけて剥落する可能性が高い。景気回復のモメンタムが弱まる可能性があることに注意が必要だ。

○ 好調な自動車販売

自動車販売が好調だ。季節調整値（第一生命経済研究所試算）でみた乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は、2012年1月以降大幅に増加し、1-3月期は10-12月対比で+13.5%となった。4月についても前月比横ばいと高水準を維持しており、好調が持続している。この背景にエコカー補助金復活が影響していることは疑いないが、果たしてこの補助金の予算はいつ尽きるのだろうか。本稿では、エコカー補助金の終了時期について、足元の販売動向を踏まえて検討する。

（万台） 乗用車販売台数（季調値）



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会
（注）季節調整は第一生命経済研究所

○ 終了のタイミングは9月か

エコカー補助金の予算額は3000億円あり、このうち事業車向けが218億円、自家用向けが2747億円となっている（事務費35億円）。トラックやバスといった重量車については1台当たり20万円～90万円、自家用については、登録車に10万円、軽自動車には7万円が支給される。申請の受付は4月2日に始まったが、昨年12月20日以降に登録されたものも遡及して対象になる。また、申請期限は2013年2月28日までだが、予算が無くなり次第終了する予定である。

このうち、事業用については早くも予算切れが迫っている。国土交通省によれば、3月末時点で補助金額

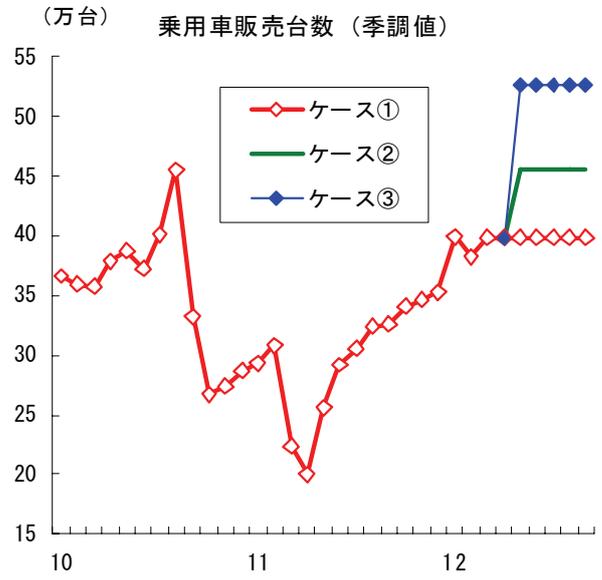
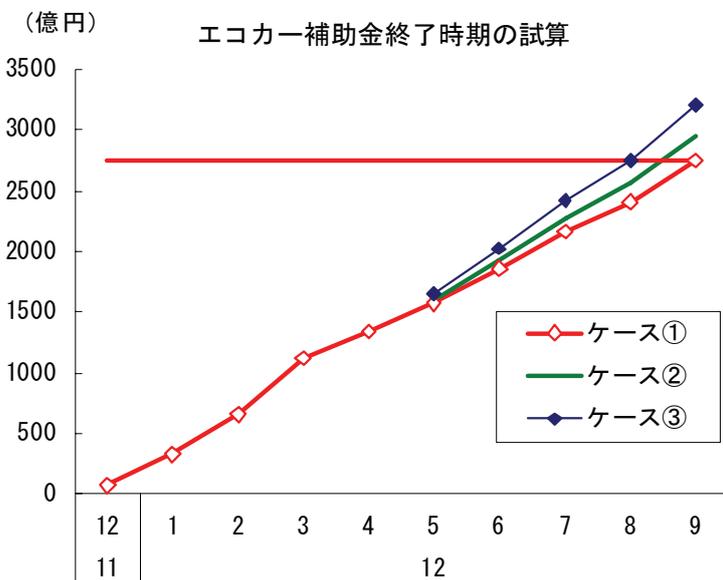
126 億円に相当するだけの事業車の登録があったとのことである。3 月末の段階で既に予算の 6 割弱が消化された計算になる。4 月以降の販売を考慮すると、早ければ5月中、遅くとも6月には予算が尽きる可能性が高い。近いうちに、事業車用の補助金終了に関するアナウンスが出ることになるだろう。

次に自家用を見てみよう。エコカー補助金の審査を行っている次世代自動車振興センターによると、4 月 10 日時点での申請金額は 208 億円とのことである。予算額である 2747 億円の 1 割以下にとどまるが、これは単に、申請書の殺到により開封作業が間に合っていないためであり、実際の申請件数はこれを遥かに上回っているとみられる¹。そこで、販売台数から予算消化額を試算してみる。2012 年 1 月～4 月の乗用車販売台数は 176 万台であり、そのうち登録車が 117 万台、軽自動車が 58 万台である。これに昨年 12 月分の販売（20 日以降）を考慮した上で、販売台数の 8 割が補助金適用対象車であると仮定すれば²、4 月末の時点で補助金支給額は 1338 億円になると試算できる。予算の約半分が既に消化された計算だ。

予算がいつ尽きるかは、5 月以降の販売状況に依存する。ここでまず、5 月以降も 4 月（季節調整値）と同水準の販売台数が続くケースを考えよう（ケース①）³。足元では、1 月から 4 月まで概ね横ばいで推移しており、先行きもこの高水準の販売が続くと仮定になる。なお、販売に占める補助金対象車の比率は 8 割、登録車の比率は 7 割とした。このケースでは、ちょうど 9 月末で予算が尽きると試算される。

次に、補助金終了を前にして駆け込み需要が加速するケースを考えよう（ケース②）。5 月にも事業用の補助金終了がアナウンスされることで、駆け込み需要が促される可能性は十分考えられる。ここでは、前回の補助金終了前の駆け込み需要が生じた 2010 年 8 月と同じ販売水準（季節調整値）が、5 月以降続くと想定した（2012 年 4 月を 14.3% 上回る水準）。このケースでは、9 月中旬に予算が尽きると試算された。なお、8 月中に予算が尽きるには、5 月以降、4 月の販売台数を 32% 上回る水準が続く必要がある計算になるが、さすがにこれはハードルが高いだろう（ケース③）。

こう考えると、現時点では、9 月中旬から下旬頃にエコカー補助金が終了する蓋然性が高いと思われる。多少販売が下振れたとしても、10 月には確実に終了する。2009～2010 年に実施された前回のエコカー補助金に続いて、またしても当初予定されていた期限前に制度が終了してしまうことになる。



(注1) ケース①: 5 月以降、季調値で横ばい、ケース②: 5 月以降、2010 年 8 月と同水準で推移、ケース③: 5 月以降、4 月対比 +32% 増で推移
 (注2) 販売の 8 割が補助金適用車、販売の 7 割が登録車と仮定
 (出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会等より第一生命経済研究所試算

¹ 年度末に登録された車両の申請手続きが、まだ行われていないものもあるようだ。
² 日本自動車工業会によれば、販売されたものの 8 割程度が補助金の対象になっているとのことである。
³ 季節調整値で横ばいのものを原数値に割り戻した上で試算した。

○ 補助金終了後の販売減が景気を抑制。年末にかけて景気回復モメンタムが弱まる可能性あり

こうした補助金の終了が、景気に悪影響を及ぼすことが懸念される。前回の補助金終了の際には、終了直前の2010年7月（前月比+7.7%）、8月（同+13.5%）に販売が急増したが、制度が終了した後の9月（同▲27.1%）、10月（同▲19.6%）には反動から大幅に減少した。四半期で見ると、10-12月期に前期比▲30.4%もの急減となっている。GDP成長率で見ても、2010年7-9月期には前期比年率+2.3%と比較的高い成長になった一方、10-12月期には同▲0.6%と5四半期ぶりにマイナス成長に転じた。こうした成長率のアップダウンには、エコカー補助金終了に伴う駆け込み需要とその反動が大きく影響しているものと思われる。今回の補助金の予算総額は3000億円と、前回の6300億円と比べて規模が小さいこともあり、前回ほどの反動減は生じない可能性はあるが、いずれにしても悪影響は避けられないだろう。

2012年1-3月期のGDP成長率は年率+3%以上の高成長がコンセンサスになるなど、年前半の成長率は予想以上に高いものになる可能性が高まっている。①復興需要の本格化により公共投資が急増していること、②エコカー補助金復活に伴う自動車販売の増加、などが背景にある。ただし、公共投資に関しては、前期比での押し上げ効果は年末にかけて剥落することが予想されることに加え、自動車販売についても、9月に予想される補助金制度終了に伴い、10-12月期には大幅に販売が落ち込む可能性が高い。足元の景気を押し上げている2つの要因がともに剥落することで、年末にかけて景気回復のモメンタムが弱まる可能性があることに注意が必要だろう。